



TCA ニュース

= 2011年10月発行 = 【No. 249】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

<http://tokyo-cycling.web.infoseek.co.jp> 〒104-0061 中央区銀座7-15-11-1201 Tel・Fax 03-3541-6540

サイクリストの五楽 ①輪楽・自転車を楽しむ ②行楽・旅を楽しむ ③道楽・道を楽しむ ④友楽・友と楽しむ ⑤遊楽・遊びを楽しむ

事務局からのお知らせ

2011全日本7時間耐久サイクリングに挑戦



11月13日(日)に千葉県袖ヶ浦フォレストレースウェイにおいてJCA主催で初開催される『2011全日本7時間耐久サイクリングin袖ヶ浦』の4時間男女混合のクラスにTCAメンバー(倉持・古賀・岩佐・北野)にてチームTCAを結成し、エントリーすることになりました。

4時間とはいえ、耐久レースのため、選手以外にも応援に来ていただける方(自転車のメンテナンスが出来る方を優先します)を7名ほど募集しております。

当日は朝、長助に集合していただき、そこから現地へ車で向かいます。現地にはTCAのテントを張ります。実際にレースに出ない方でもレースの雰囲気を十分に味わえるかと思っておりますので、是非応援に来てください。意思のある方は電話又はメールにてご連絡をお願いします。北野携帯：080-5312-6359 ・ メールアドレス：ja040980@yahoo.co.jp

TCA秋の一泊ラン IN 京王閣のお知らせ

前号の『TCA秋の一泊ラン in 京王閣』の走行プランの紹介です。

現地には、渡辺理事(090-8514-1967)が早め(11時頃)に行って待機しています。

基本的には集中ラン(現地集合)ですが、仲間と一緒にの走行を希望の方は参考にしてください。

①中村事務局長が旧甲州街道経由で京王閣へ

神宮外苑CC 集合・スタート10:00 中村理事(090-6415-8165)

②北川専務理事が左岸河口0kmポイントを確認して多摩川・野川を經由して京王閣へ

多摩川左岸河口 集合・スタート 9:30 北川専務理事(090-9142-2621)

※ どちらも調布市内・京王閣付近で昼食を取る予定です。

③昼食後、荷物を置いて羽村まで多摩川を遡ってみてはいかがでしょうかでしょう。

(スタート13:00予定)

※ 問合せ、申込は事務局(03-3541-6540)まで。

* 尚、参加費は事前に、事務局まで直接納金するか、下記口座へ振込んでください。

銀行振込：三井住友銀行銀座支店普通口座7401968

東京サイクリング協会

郵便振替：口座番号 00100-9-190048

東京サイクリング協会

【10月末現在 会員数339名】

EVENT

自転車をもっと好きになる講習会

『自転車をもっと好きになる講習会』をパレスサイクリングコースと楠公レストハウスにて開催します。

- ◆日時：12月11日(日) 14:00~16:30
- ◆会場：パレスサイクリング自転車貸出所テント付近集合
(雨天の場合は、楠公レストハウス)
- ◆内容：前半では自転車をさわりながら、乗りながら、後半は座学で色々興味のある話題を提供することを考えています。
- ◆申込：人数を確認したいので、事務局宛(03-3541-6540)の連絡をお願いします。
- ◆会費：500円(雑費として当日徴収)
- ※注意：『サイクリストのタベ』に引き続き参加される方は、レンタサイクルの利用をお勧めします。自走の場合には、輪行袋を必ずお持ちください。

サイクリストのタベ へのお誘い

今年も『2011サイクリストのタベ』を開催します。今年一年のサイクリングの成果、今後の予定や近況を話題に、楽しんでいただければと思います。

今回は講習会の後に、楠公レストハウスで実施いたしますので、ふるってご参加ください。

- ◆日時：2011年12月11日(日)
16:30~19:00
- ◆会場：皇居二重橋前 楠公レストハウス(楠公銅像前)
最寄り駅は、東京メトロ千代田線 二重橋前駅 2番又はB6出入口から徒歩5分
- ◆会費：5,000円
- ◆申込み：事務局へ連絡(03-3541-6540)上、参加費は事前に事務局まで直接納金するか、TCA事務局口座へ振込んでください。



~~~~~

# REPORT

## 第23回都民スポレクふれあい大会 荒川ハーフセンチュリーライド顛末記

都民スポレク担当理事 内田 実

10月2日(日)、第23回都民スポレクふれあい大会として今年で5回目を迎えた荒川ハーフセンチュリーライドが、やや曇天・弱風の中約90名の参加者で開催された。

今回の開催に当たり、例年とはややかしこまった計画を立案した。それは、国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所との打合せから始まった。

岩淵出張所長から面談の申し入れがあり、小笠原副会長、中村事務局長と共に訪問した。約1時間の打合せ・確認事項が話し合われた。たいへん自転車にご理解のある所長で、多くの要望事項

があったが、打合せ内容を勘案し、再度計画書を提出することで開催の許可を貰うことが出来た。

東京サイクリング協会としては、本大会を実施するにあたり『荒川下流河川敷利用ルール』の目的に準拠し、荒川緊急用河川敷道路をみんな気持ちよく、より安全に利用するために自転車が気をつけて走行するための心構えを周知させる為、参加者には啓蒙資料として、下記の資料を送って協力をお願いした。

- ◇ 『荒川下流河川敷利用ルール』の運用開始に関する告知ビラ
- ◇ コース案内と走行注意事項
- ◇ スタッフの配置計画と心得
- ◇ 『河川敷一時使用願承諾書』（写し）
- ◇ ルート概要図及びスタッフ配置計画図

開催当日6時過ぎ、集合場所の大島小松川公園自由の広場に数名のスタッフが既に到着しており、また、ラジオ体操愛好会の皆さんが三々五々集まってきた。6時30分のNHK放送から7時前まで、久々のラジオ体操第二までお付き合いをしました。資機材輸送班の一人が、そろそろ良いかな？と、笑いながら上がってきました。早速、本部設置の準備開始！！

8時過ぎ、開会式を済ませ、余裕を持ったスタート時刻を迎える。先行走路確認スタッフの第一報が入る。総武本線高架下付近では、人混みや道路上でのキャッチボールをする皆さんに注意との報告を受ける。8時40分から5名1組でスタート。最後の第18組が9時前にスタートし、全ての参加者が発走を完了する。

9時30分前、右岸鹿浜橋と岩淵水門間で参加者と一般自転車走行者との接触あり、救急車が到着しているとの報告がある。ゼッケンナンバーから対象参加者の名前が確認できた。先導ペースメーカースタッフと鹿浜橋チェックポイント担当スタッフ兩名が対応している。さらに、鹿浜橋担当4名のスタッフから順次現場の様子が報告される。10時15分、国交省河川巡視員（原付バイクで常時巡回中）の立会いがあり状況説明を完了し、11時前に警察の立会いが終了との報告があった。その間、巡回支援ペースメーカースタッフ（巡回対策）から、逐次移動しながら各所の現状報告が入る。12時5分頃、事故被害者本人から電話があり、板橋中央病院にて治療中とのこと。事故当事者は二人ともJCA会員なので自転車総合保険を適用。

今年の3月19日（土）文京区民センターで開催される予定であった、平成22年度JCAサイクリングディレクター、インストラクター更新研修会のテーマは『事故と保険について』であった。講師の予定であった小笠原副会長との準備・打合せや勉強をさせて頂いたことを思い出す。

最終ゴールの参加者は13時22分に到着。

最後となりましたが、調査・計画の通りほぼ完璧に実践出来たと一人で？思っていることを、参加者並びにスタッフの皆様にお借りし、御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上



スタート・ゴールの大島小松川公園にて H23. 10. 2



# ドイツ・メルヘン街道サイクリングレポート

《日程：2011年5月31日～6月11日》

TCA理事 中田修二

今年の2月号 (No. 242) で、TCA会員有志企画として紹介された海外サイクリングツアー「ドイツ・メルヘン街道サイクリング」の報告をします。

今年3月に起きた東日本大震災のため、昨年のアイスランド火山噴火に続きまたもや中止かと危ぶまれました。しかし、疲弊した日本を少しでも活気付けたいと参加者全員の思いから、敢えて実行することにしました。

参加予定の安西さんはお母上のご病気のため出発直前に参加できなくなり、又、河野理事ご夫妻もフランクフルトに着いた翌日、お母上危篤の報に接し帰国を余儀なくされました。このため8人でのサイクリングツアーとなりました。

もともと、6月はドイツで一番気候に恵まれた時期ですが、このたびは天候異変のためか天気予報は思わしくない方向を示していました。しかし、予報に反して若干の雨にはあったものの、全体としては素晴らしい天候に恵まれました。

今回のサイクリングで特に印象に残ったことは、幾つものトラブルに逢いながらも、結果は殆ど全てポジティブに好転したことです。



サイクリング出発前のフランクフルトのホテルにて

先ず初めに紹介したいのは、海外経験の豊富な先輩の河野さんから、箸袋で折った白鳥を沢山持って行くようにとの強いアドバイスを受けたことです。袋を50羽分位準備しましたが、出発前に緊急の仕事が入り、事前に折る時間が無くなってしまいました。そこで日頃自分用に飾ってあった50羽ほどの白鳥を全て、箸袋と一緒に鞆に詰めました。

ドイツに着いてから、写真を撮るのを手伝ってくれた人、道案内をしてくれた人、ホテルやレストランでお世話になった人などに、“つがい”をイメージして原則として2羽差し上げました。1羽は既に出発上がっているもの、もう1羽はその場で折ってプレゼントしました。

例えば、サイクリングロードで会ったご夫婦に差し上げたところ、奥様いわく「ドイツ語でも、日本からの外来語として“オリガミ”と言います。私もドイツ語のオリガミの本を持っています」と、とても喜んでくれました。そしてお礼に自転車の前かごに付けていた花を一本プレゼントしてくれました。これは今でも押し花として大事に保管してあります。



写真を撮ってくれた奥様の手に2羽の白鳥

同窓会するとき後輩から教わった折紙が、これほど親善大使の役割を果たすとは想像だにしていませんでした。“オリガミ”がドイツ人の日本人に対する親日感情を増幅することに驚くとともに、強くアドバイスしてくれた河野先輩の慧眼に深く感謝しています。

お陰で素晴らしいサイクリングツアーになりました。